

造形通信

2025. 1月
NO.74
ひいらぎこども園

寒さがまだまだ厳しい毎日です。寒い中でも、桜並木の枝には桜の花の小さなつぼみが春の到来を待っています。小さなつぼみが日ごとに膨らんでいくのを楽しみにしたいものです。こども園では、1月27日から作品展が開催されます。様々な素材を使って、子どもたちが自分たちの発想をもとに、造形活動を進めてきました。その道筋を各部屋の作品を通して感じとっていきたいです。

素材を楽しむ 素材を生かす

紙粘土を使ってケーキ作りを楽しみました。段ボールで作った土台をもとに紙粘土をつけていきます。ビローンと伸びて、子どもたちは大喜び。手につくこともなく、とても軽い紙粘土です。ペタペタと生クリームをつけていくと、気分はケーキ屋さん。子どもたちは自分でどんどん生クリームを重ねていきます。楽しくなると、先生が何も言わなくても、活動は続いていきます。思い思いに周りに枝や赤い実、葉っぱをつけて、できあがり！

豆知識

何ととっても軽い。手にべたべたとつかないので、子どもたちの製作活動にはとても適した材料です。活動内容に合わせて、適した材料をあたえることで、子どもたちの活動意欲も高まります。ちょっと知っておくことが大事です。

教材：軽量紙粘土 きまる サクラ教材

ビローンと伸びてるよ。納豆みたい。

ねこちゃんに色付け。ものすごく真剣な顔で筆を動かしています。

段ボール

ひろがる遊び

段ボール一つでいろいろな遊びが広がります。中をくぐったり、中に入ったり、積んだり、色を塗ったり。一人で遊んだり、みんなと遊んだり。楽しい活動に発展していきます。子どもの実態に合わせて遊びを工夫していきたいです。

年中組さんが作っていた「ねこ」。そんな手作りねこを見ていたすみれの子どもたち。自分たちも作ってみたいと広がっていきました、一生懸命色を塗っています。真剣そのものです。

様々な活動を楽しんできた子どもたちです。活動の足跡は作品展でどのような形となって表れてくるのでしょうか。27日から始まる作品展が楽しみです。